

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立農業学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）

(2) 事務局の構成 副校長、教務主任

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任兼農場主任、担任連絡会 計7名

(4) 協議委員の構成

府中市立第三中学校長、府中公共職業安定所事業所部門業務部長、警視庁府中警察署生活安全課少年第一係長、八王子保護司会保護司、EPTA副会長、 計5名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月20日（金）内部委員7名、協議委員3名

協議委員委嘱、委員紹介、学校経営計画と各分掌の方策説明、本校の現状と課題等説明、助言

第2回 令和7年11月28日（金）内部委員6名、協議委員4名

学校経営計画に対する各分掌の取組報告、学校評価アンケートの確認、助言

第3回 令和8年3月13日（金）内部委員7名、協議委員4名

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年11月28日（金）開催まで（書面開催）

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第2回 令和8年3月13日（金）開催まで（書面開催）

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点と方法

本年度の学校評価アンケートでは、昨年度質問を刷新した、分かりやすい日本語で、都立高等学校としての視点を加味して、意見聴取をした。また、昨年度までは学校運営連絡協議会が全日制課程と合わせての開催であったが、定時制課程のみの開催として実施した。これにより、よりきめ細やかな評価と、助言がいただけるように計画をした。以上を受けて、昨年度との比較による分析を行った。

(2) アンケート調査の実施時期と対象

いずれも12月に Forms によるオンライン調査を行った。

・生徒 対象63人、回収53人、回収率84%

・保護者 対象63人、回収13人、回収率21%

・地域住民 回答なし

・教職員 対象18人、回収18人、回収率100%

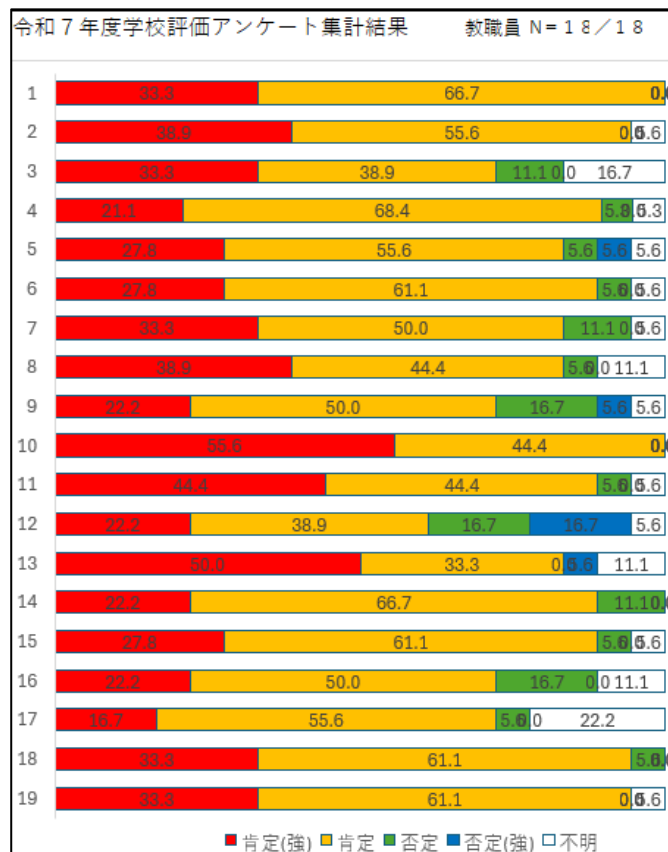
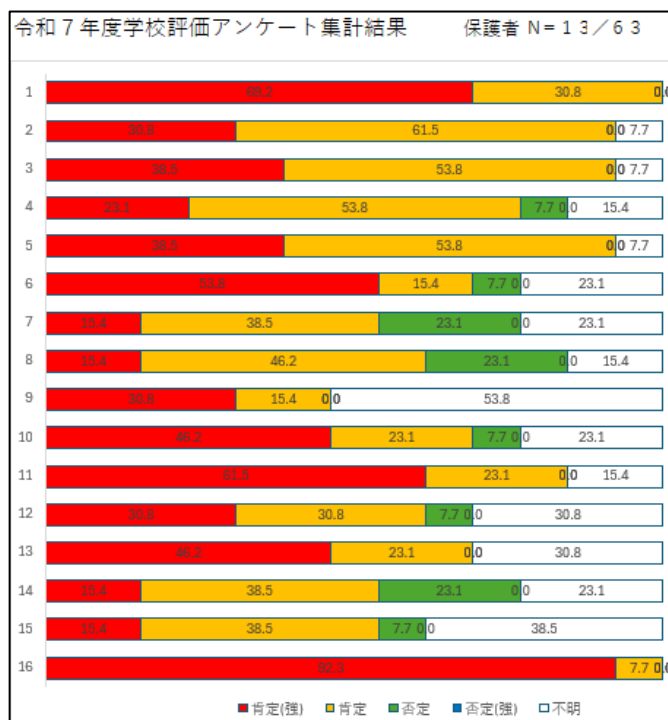
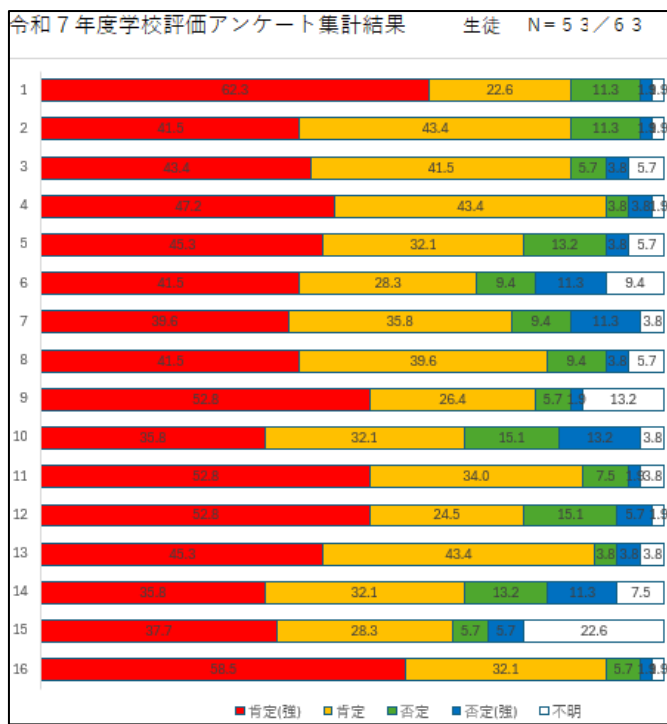
(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康と安全、施設設備、都の政策への取組について設問を厳選し、記載および回答用紙を分かりやすい表記に昨年度改めたものを使用した。

(4) 評価結果の概要（成果と課題）

アンケートの設問（生徒）と、それぞれの結果を次に示す。

番号	設問
1	私は、学校生活が楽しい。
2	私にとって、授業は分かりやすい。
3	私は、授業や実習等を受けて、学力や技術が向上した。
4	私は、授業でルールを守り、積極的に取り組んでいる。
5	私は、学校行事に参加して、感動や達成感を感じている。
6	私は、部活動や委員会に参加して、成長した。
7	私にとって、進路学習は充実している。そして、進路希望の発見や実現に、役立っている。
8	学校は、授業ルールや身だしなみの指導が、きちんとできている。
9	学校は、いじめや体罰をなくす、指導をしている。
10	私は、学校の清掃は良くでき、教室や校舎内がきれいと思う。
11	私にとって、先生は悩みや相談に、親身にに応じてくれる。
12	私は、自ら進んで、あいさつができる。
13	私にとって、安全教育（防災、薬物、交通など）は、生活に役立っている。
14	私は、ICT（パソコンやタブレット）機器を使って、授業の興味が高くなった。
15	私は、学校がライフ・ワーク・バランスを、進めていると思う。
16	私は、農業高校、定時制に入学して、良かった。



(5) 評価結果の分析・考察

設問項目は、全体としての満足度（生徒では設問1、16）、学習への満足度（生徒では設問2、3、4、14）、生活指導への満足度（生徒では設問5、6、8、9、11、13）その他の構成である。回答は5択として、強い肯定、肯定、否定、強い否定、不明により意見聴取した。

全体としての満足度、①学校生活が楽しいでは、生徒、保護者、教職員の順に肯定的な回答が85、100、100（数値はパーセント、以下同様）である。また、②入学満足度では90、100、94である。昨年度と比較をしていずれも向上しているが、特に生徒の学校生活満足度では、強く肯定する生徒が倍増した。また、昨年度考察をした学校生活への満足度での、生徒と教職員の間の差は半減している。

学習への満足度、③授業の分かりやすさでは、85、92、95であり、昨年度より向上している。さらに自らが行う授業については、昨年度の全肯定から否定的な回答が増えた。また、④学力向上については86、92、90となり、昨年度の教職員が思っている評価は得られていない考察から、同等の回答に近づいた。また、⑭学び方改革につながるデジタル化では、68、54、72であり、昨年度同様にいずれも低い値であるが、生徒が強く肯定する割合は23から36に増えている。

これに対して、ここでは評価を計量化するため、肯定、否定に対して強い回答に2を掛けて、比較をした。結果は0から1の値を取り、1が肯定度満点である。上述①から④を順に比較をした。①は生徒、保護者、教職員の順に0.75、0.85、0.67、②は0.64、0.67、0.71、③は0.68、0.71、0.63、④は0.70、0.59、0.59であり、上述の肯定に加えてその強弱を加味すると、生徒ほど強く肯定する傾向が読み取れた。

生活指導への満足度、⑧規律指導では、81、62、72である。また、⑩相談体制については87、85、83で、⑨いじめと体罰をなくす指導では79、46、89である。さらに寄り添える指導といじめと体罰指導への工夫が必要である。また、⑤学校行事の満足度は77、92、89であり、昨年度、定時制課程としての行事の在り方改善を提言したが、生徒の回答が10増加しており、着実な成果が得られつつある。

その他、⑦進路指導の満足度では、75、54、83であった。本年度は総合的な探究の時間をキャリア教育の視点で改善、進路指導部による系統的な改善が進み、昨年度の生徒評価の低さが改善された。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

昨年度より定時制課程としての協議を重視するため、定時制課程としての学校運営協議会として実施をした。その結果、昨年度の助言から町内会をはじめとした地域連携への道筋を付け、第1回協議会では現況の報告とさらに発展させるための助言をいただいた。また、日本語指導が必要な生徒の増加と、特別の教育課程導入についてご説明をし、こちらも地域のNPOとの連携により成立していることを伝えた。卒業後の進路については、求人の方針をご教示いただき、本校の進路指導に生かすことができた。第2回協議会では、経営計画への取組をご説明し、やさしい日本語とユニバーサルデザインの推進、一人1台端末の活用状況、本年度より実施されるTIPSファームについて、また再編であるが新規導入となるInstagram配信についてご説明をした。また、立川で不審者による暴行事件が発生した直後の協議会では、府中警察署中村係長様にサスマタの使用法訓練をご教示いただけた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

昨年度は、生徒により得られた成果を、次の活動へ生かせるようにしたいことを提言した。府中市選挙管理委員会の依頼を受けた選挙啓蒙活動のような地域と連携した活動を、より多くの生徒が経験できるようにしてもらいたい。これに対して総合的な探究の時間では挨拶学習の後、夜回り体験学習を行い、代表生徒が地域の防犯パトロールに参加した。地域の教育力がある地域であり、すでに行っている地域清掃の奉仕活動

に加えて、住民と直接かかわりあえる経験ができるようにしてほしい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

学校生活や入学への満足度を高めるため、分掌業務、授業ともに自己点検を行い、改善点を見出し、計画的に次年度の運営が計量的にできるようにしたい。そのために、組織目標をさらに活用されたい。また、生徒が学びを実感できるように、スモールステップでのアウトプットとその評価を行いたい。

(2) 学習指導

授業の分かりやすさ、学力向上とも肯定的な回答が昨年度よりも向上した。引き続き改善を進めてほしい。また、デジタル化では、まだ十分な結果が得られていないため、一人1台端末の活用を推進しながら、学び方改革を推進したい。

(3) 特別活動

課外活動への満足度は、改善が進んだ。引き続き生徒の発達度に合わせながら、生徒一人ひとりの心に響き、変革を生める、定時制課程としての行事の在り方にしたい。

(4) 生活指導

昨年度と比較して良い結果に変化している。特性を持った生徒への対応強化ができた結果と推察する。さらに向上するため、生徒の自立を促す活動の見直しをされたい。

(5) 進路指導

進路指導に対する満足度改善した。キャリア教育としての視点で生徒のニーズをとらえ、総合的な探究の時間をはじめとした授業改善と、進路指導部による学校行事との連携による成果と推察する。成果を検証してさらに発展させたい。

(6) 健康・安全

生命の尊重、いじめと体罰の撲滅に向けた教育活動を推進し、課題を予見した際には相談委員会やケース会議による機動的な運営をしてきた。また、精神科医による研修会を実施したとのことである。一方で、昨年度に引き続きコンディションレポート生徒の履行率向上に対して努力されたい。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

強く思う	思う	思わない	強く思わない	分からない	無回答
1	3			1	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

なし。

8 その他

ライフ・ワーク・バランスについては生徒への紹介が不足している。これに限らず、都立高校として東京都の施策紹介をされたい。